

松阪市子ども支援研究センターだより

松阪市子ども支援研究センター〈TEL. 26-1900 FAX. 26-1901〉
E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>
松阪教育支援センター「鈴の森教室」「三雲やまゆり教室」
〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

「自己肯定感」について

2月も下旬になり、柔らかな日差しに春の到来を感じるようになりました。今年度も残り1か月少々となり、各園・学校では、卒園・卒業や年度末のまとめ等、たいへんご多忙な日々をお過ごしのことと存じます。

さて、近年「自己肯定感」という言葉が広く使われるようになりました。「自己肯定感」とは、自分のあり方を積極的に評価できる感情、自らの価値や存在意義を肯定できる感情などを意味する言葉です。(国立青少年教育振興機構「自己肯定感とはなんだろう?」より)

独立行政法人国立青少年教育振興機構は、平成29年度に日本・米国・中国・韓国の4か国で、高校生を対象とした国際比較調査を行っています。それによると、「私は価値のある人間だと思う」と回答したのは、日本が44.9%で、他の3か国の80.2%~83.8%を大きく下回っています。他にも、「私はいまの自分に満足している」については、日本が41.5%、他の3か国は62.2~75.6%となっています。また、「私は辛いことがあっても乗り越えられると思う」については、日本が68.7%で、他の3か国は80.4~89.8%というように、日本の子どもたちの自己肯定感が他国の子どもたちに比べて低いという調査結果が示されています。

また、同調査では、「自己肯定感と親や他者との関わりの関係」についても、以下のようにまとめられています。

- ◎自己肯定感が高いほど、親との関係が濃密になる傾向が見られる。言い換えれば、保護者が子どもの悩みを聞き、子どものことを分かってあげると、子どもの自己肯定感が高くなる。また、叱るよりもほめる方が子どもの自己肯定感を高める効果がみられる。
- ◎自己肯定感が高いほど、教師との関係が濃密になる傾向が見られる。言い換えれば、教師が生徒の相談相手になり、生徒のことを理解してあげると、生徒の自己肯定感を高める効果が見られる。

2019年2月に三重県が発行した「みえの子ども白書」においても、「家庭や地域、学校などで大切にされている」「親などの大人は自分のことをわかっている」と思う子どもほど、「自分のことが好き」と答える割合が高いことが示されています。

アメリカの教育学者ドロシー・ロー・ノルトさんの著書「子どもが育つ魔法の言葉」は、22か国語に翻訳され、世界中で多くの共感を呼びミリオンセラーになりました。ご存知の方も多いのではないのでしょうか。ドロシーさんの詩の中に「子は親の鏡」という詩があります。その中に、「励ましてあげれば、子どもは、自信をもつようになる」「誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ」「愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ」「認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる」等の内容があります。子どもは親の言葉に励まされ、自分は認められ愛されているのだと感じるとともに、様々な困難にぶつかった時でも心の支えになるというものでした。

子どもたちが豊かに育つためには、普段から子どもが悩みごとなどを話せる関係を築いていくことが大切であるといえます。子どもをほめること、認めること、子どものことを理解することを大切にしながら、日々の教育活動を行っていきたいと思います。

(野田 幸範)

松阪教育支援センター「鈴の森教室」「三雲やまゆり教室」

不登校児童生徒のうち「鈴の森教室」「三雲やまゆり教室」に、通室生として関ることができた児童生徒の数は、全体の約1割にとどまっています。外に出られず、自宅で休んでいる子どもたちは自宅が一番安心する場所です。安心する場所にいることで、子どもは元気に明るく過ごしエネルギーを溜め、外に出る準備をしています。雛が卵から出る準備が出来た時に、中から卵を割るように、エネルギーが溜まったときには自らの意志で外に出ようとします。「外に出てみようかな。でも、いきなり学校に行くのは勇気がいるなあ」「少しずつ外に出るのに慣れていけるといいんだけど」などと子どもたちが思った時に、きっかけとして当センターを紹介して頂けたら幸いです。

当センターは「疲れた心を元気にする」「あなたの気持ちや考えを大事にする」ことを大切にしています。体験活動や小集団での活動を通して、子どもたち同士や指導員と交流を深め、心が安定したり、人と交流することの楽しさを感じられたりするところです。今年もセンターに通うことで、元気になっていく姿を見せてくれた子どもがたくさんいます。通室生の中には「もっと早く鈴の森教室に来ればよかった」と話してくれる子や、最初は指導員としか話をしようとしなかった子が、今では他の通室生に積極的に話しかけたり、笑顔でキャッチボールをしたりしている子がいます。中には、「学校に行ってみようかな」と学校に通い始めた子もいます。

他にも、不登校児童生徒相談や担任会・研修会を実施しています。不登校の相談だけでなく、休みが増え始めてきたことで心配なことや、子どもへの支援の仕方等の相談も受け付けています。少しでも早い時期に、子どもへの支援や不安に感じていることの相談をしてもらうことで、欠席の長期化を防ぐことができます。先生だけでなく保護者の相談も受け付けていますので、気になる児童生徒がいましたら保護者に当センターをご紹介ください。

担任会・研修会では、不登校児童生徒をどのように支援していくか、専門の先生をお招きしてお話しして頂いたり、先生方が日頃悩んでいることについての質問に答えて頂いたりしています。来年度も年3回予定しておりますので、ご参加ください。